

社会教育主事の資格を取得しようと思った動機

- ・学校で勤務していく中で、教育は家庭・地域・学校の連携がとても大切であると痛感したため（教諭：45才）
- ・教員としてのキャリアが終盤を迎える前に、別角度から教育を学びたいと思ったから（教諭：47才）
- ・校長の薦めもあったが、資格を持たれている先輩方からも、見識が広がるから受講した方が良いと薦められたから（教諭：43才）
- ・子供の「生きる力」育成のためには学校教育の中だけでなく、地域社会等における体験活動の経験も重要と考え、地域社会との活動をコーディネートしていく社教主事の職務に興味があったから（教諭：36才）
- ・勤め先の公民館に専門職員が在籍しておらず、職員全員の経験年数が2年未満という状況であったことから専門的な知識を学ぶために受講した（参事：40才）

社会教育主事の資格を取得する前後の変容

- ・学校内でどうかしようと考えがちだったが、受講後は外部との連携や協力を得ることはできないか考えるようになった（教諭：43才）
- ・学校の授業において、積極的に地域人材を活用しようとする意識が高まった（教諭：39才）
- ・子供は学校だけで教育するのではないという意識（地域とともにある学校づくりをすすめ、みんなで子供を育てていきたいという意識）が高まった（教諭：45才）
- ・地域社会における学校の存在意義について把握した上で仕事をしている（教諭：40才）
- ・公民館講座を開催する際の、チラシやポスターについて講習で学んだことを意識しながら作成するようになった（主任：41才）

良かったと思うこと、今の仕事に役立っていること

- ・自らが地域の一員として活動してきたことで保護者や地域の方との距離が近くなった（教諭：36才）
- ・他地域の様々な考えの方や幅広い年齢層の方々、多職種の方々と触れ合うことで、いろいろなことを学んだり、経験したりしている（教諭：44才）
- ・地域資源の捉え方、活かし方について柔軟な発想と広い視野が持てるようになったと思う。また、地域における様々な団体の存在、取組を知ることができ、多くの人とのつながりが得られた（教諭：42才）
- ・前任校で大きな地震の後、地域とともに復興に向かう取組の中で、運動会や様々なイベント等の際、社会教育主事講習で学んだことや経験（周りへの関わり方など）が自分の中で役に立った（教諭：42才）

社会教育主事講習の思い出

- ・一緒に講習した仲間との出会いが今の仕事においても財産となっている。今でも年に1回、同窓会で会っている（教諭：47才）
- ・幅広い分野の講習、現地研修や公民館研修などたくさんの経験をさせてもらい、1つ1つを乗り越える度に仲間とのつながりも深くなっていったように思う（教諭：40才）
- ・現地研修で、まちづくりの実践例を学ぶことができ、とても有意義だった（館長：64才）
- ・県外の研修で、体験活動を行ったこと（教務主任：44才）
- ・講習に来なければ決して出会うことのない先生方、地域の職員の方々に出会えたこと（教諭：40才）

その他（自由記述）

- ・同期の仲間たちとは今でもつながっており、社会教育主事として活躍している人、公民館で社会教育に携わっている人、学校で管理職として地域や保護者と連携した取組を行っている人など、それぞれが様々なポジションで活躍されています（教諭：47才）
- ・次年度は、社会教育士という資格になると聞いています。あと数単位取れば、その資格になるとも聞いています。これまでの資格修了者が、その資格を取るためにはどうすればいいのかが聞きたい（教諭：44才）
- ・地域学校協働活動、CS、地域とともにある学校づくりなど学校の変革が求められる中で、社会教育主事に求められる役割は、一層重要視されると思われます。様々な研修や各学校の校内研修等を通して、今後一層、社会教育について研修を深めていく必要性を感じます（教諭：47才）

お問合せ先

対象者：H27～H30の熊本県内受講者（H28は熊本地震の影響で開催されず）
回答数：36名（回答率58.1%）から一部抜粋
内訳：教諭24名 行政関係者12名 ※役職、年齢は受講当時のもの

国立大学法人 熊本大学
研究・産学連携部 社会連携課
〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
TEL：096-342-2036
E-mail：syakyo@jim.kumamoto-u.ac.jp